



そよ風が運ぶ

快適空間

吹き出し口

- 1 吹き出し口は、ボールが当たっても壊れない布製。吊り下げただけなので、大規模な工事を必要とせず、短い工期かつ低負担で導入が可能
- 2 サーモグラフィーで計測すると、子供たちのいる空間が青色(適温)に
- 3 運動をする子供たち。温度のストレスがなく、活動に集中できる

子供たちの声が響く末広小学校の体育館。外気温が30度を超える中、館内には心地よい冷気が。バスケットゴールの裏に吊り下げられているのは、7月から試験的に稼働している、冷・暖房が可能な空調設備だ。市は、全ての小・中学校への導入も見据え、来年3月まで空調の効果や運用にかかる費用を検証している。

問い合わせ 教育総務課 ☎(84)2783



新発工業㈱ ヒートポンプ
エンジニアリング事業部
宮村浩史 事業部長(52)

体育館で見かける大型扇風機は、涼しくなっても効果が局所的。末広小学校でも熱中症の危険性が高いと、より安全な別教室での授業に切り替えていた。体育を楽しみにしている子供も多く、「入った瞬間、涼しい。今年は体育館をたくさん使えてうれしい」との声が。安心して運動ができる、教職員からの評判も上々だ。

今回設置した空調設備の強みは、温度調節だけではない。宮村事業部長は、「余計な気流を出さずに、そよ風のような柔らかい風を送り込めるんです」と力を込める。スポットクーラーや大型扇風機のような強い風が発生せず、バドミントンや卓球などの繊細な競技にも影響しないという。空調機本体が屋外にあるため、館内のスペースを奪わず、騒音が少ないことも特長だ。

「屋根が広くて窓も多い体育館は、日射量が多く、暑くなりやすいんですよ。そう語るのは、菩提地区に工場を構える新発工業㈱の宮村事業部長。令和5年に本市と締結した災害協定の 일환として、空調設備の実証事業に名乗り出た。同社の工場や事業所がある全国の自治体の中で、本市が体育館の環境改善に積極的なことも決め手だったという。

学校活動に寄り添う空調

地震が発生した際、高齢者や小さい子供を含む、たくさんの避難者が利用する体育館。末広小学校で検証を実施するのも、想定避難者数以外の学校より多いことが理由の一つだ。夏の暑さだけでなく、冬の寒さも厳しい避難所生活、天井の高い体育館は、暖気が上昇して冷気が底にたまってしまい保温性能が低い。宮村事業部長は、「今回の空調は、まんべんなく送風できるので、館内全体を温められます」と自信をのぞかせる。冬場の寒さ対策にも抜け目が無い。

人が密集する館内では、熱中症や低体温症だけでなく、感染症の拡大を防ぐ必要も。感染を防止するには、換気がとても重要だ。宮村事業部長は、避難所として利用する際は、通常時よりも強力な換気機能が作動し、窓を開けることなく空気の入れ替えができるため、避難者を夏の熱風や冬の冷気にさらさずに済む。

本市で、特に切迫性が高く、多くの被害が懸念される都心南部直下地震。市では、衛生用品や給水タンク、簡易ベッドなどを確保し、万が一の事態に備えている。移動式の冷・暖房機や換気用のサーキュレーターは、一定範囲のケアができるが、館内全体は難しい。吉田校長は、「館内の暑さと寒さを体感しているからこそ、より充実した避難者への配慮が必要だと感じています」と話す。空調設備は、体育館の避難所としての機能を、さらに向上させる大きな要素になるはずだ。「秦野市を皮切りに、全国へ取り組みが広がれば」と将来を見据える宮村事業部長。子供たちや先生、避難者がより快適に利用できるように、今後も改良が進められる方針だ。

空調設備の検証は始まったばかり。いつまでも誰にとっても居心地の良い体育館を目指して、市は大きな一歩を踏み出した。

末広小学校の吉田正也校長は、参加人数の多いイベントや研修会などを、夏場でも実施できると期待を寄せる。

今回の空調設備以外の対策も

1台で完結するため迅速な展開が可能

発災時、災害協定に基づいて、新発工業㈱から供給される空調機と発電機を搭載したトラック。市は、停電時にも避難所の温度管理ができるよう備えている。

8月1日~7日は「水の週間」

水道水は安全です 安心してご利用ください

26カ所全ての配水場で定期的に水質検査をし、全ての項目が基準値以下の安全な数値でした。また、近年問題視されている有機フッ素化合物(PFOSおよびPFOA)についても、全て暫定目標値以下の安全な数値でした。放射性物質の測定や水質検査の結果は、市ホームページにあります。

災害時のために備えを

1人当たり1日3ℓを、最低3日分用意しましょう。市では、ペットボトル飲料水「おいしい秦野の水・丹沢の雫」をコンビニやスーパーなどで販売しています。

販売店や自動販売機設置施設の一覧は市ホームページにあります

問い合わせ 経営総務課 ☎(81)4113

参加者募集

はだの生涯学習講座

そこにあるモノでなんとかする サバイバルの心構え

とき 8月23日(土) 午後1時半~3時
ところ 本町公民館
内容 何も持たずに被災した際に、身の周りのものを活用して生き抜くための知恵や工夫を学ぶ
定員 50人(申し込み先着順)
申し込み 電話、右の二次元コードから電子申請または任意の用紙に住所、氏名、電話番号を書きファクス((86)6563)。メール(s-gakusy@city.hadano.kanagawa.jp)も可

トッカグン小野寺氏
災害予備自衛官、防災士

問い合わせ 生涯学習課 ☎(84)2792